

# 経法祭が開催されます 11/7(土)・11/8(日)



今年も家族連れで母校を訪問しよう

学生の大イベント経法祭が11月7日(土)・8日(日)の2日間の日程で開催されます。校友会は例年、在学生に対する校友会のアピールと経法祭を機会に母校を訪れる校友の憩いの場を提供するために、積極的に経法祭に協力参加しています。正門に入ってすぐ右手にあるブルーのテントが目印です。このテントの下で種々の楽しい企画を行っています。

今年も、恒例の餅つき大会、地域支部による物産店を出すなど、卒業生とその家族、在学生、教職員、地元住民とのが交流できるよう、盛りだくさんな企画を実施する予定です。また、校友会による模擬店審査で賞金を出すなどの協力を行います。

経法祭期間中には毎年たくさんの校友がこのテントを訪れ、おおいに懇親を深めています。

校友会では、経法祭期間をホームカミングデーとして位置づけ、校友が懐かしいキャンパスに集い、交流を深めることができるよう準備を進めています。家族連れ、友人を誘っ



て、ぜひ母校に遊びに来てください。また、参加校友には模擬店で使用する金券のプレゼントなどの特典を用意しています。詳細については、校友会ホームページに掲載(10月中旬予定)しますので、ご覧ください。

## 校友会ホームページを校友と校友会のコミュニケーションの場に

校友会ホームページを開設しています。校友会ホームページは大阪経済法科大学ホームページのトップページ上部にある『卒業生の方へ』タブから入ります。校友会ホームページを校友と校友会の双方向コミュニケーションの場として積極的に利用しましょう。

校友会ホームページのトップペー

## 女性部会からのお知らせ



女性校友のみさんには、経法祭に参加して、校友会企画にご協力くださるようお願いいたします。ご協力いただいた女性校友には模擬店で使用するチケットや記念品など、さまざまな特典があります。また、女性部会では3月の『女性校友の集い』に続き、女性校友が多く集まれるような新しいイベントを企画中です。企画内容がまとまり次第、連絡しますので、是非多数の参加をお願いします。



ジでは新着情報が随時更新されています。また、学歌「白き学舎に」を聞くことができます。「活動報告及び行事予定」には、校友会の最新情報やそれぞれの校友会事業の様子などを掲載しています。

また、「校友会掲示板」を通じて、校友の近況や校友会事業に対する要望などをぜひお寄せください。

# 校友会報

NO. 14

大阪経済法科大学・校友会報・14号  
Eメールアドレス:kouyukai@keiho-u.ac.jp  
編集 / 大阪経済法科大学校友会事務局  
〒581-8511  
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番地  
TEL・FAX 072・941・8268

校友会報・14号 2009年10月10日発行

## 校友会10年の歩み



# 第11回 校友会総会・懇親会



**校友会設立10周年記念  
第11回校友会総会を盛大に開催!**

7月25日(土)、校友会設立10周年記念事業として、第11回大阪経済法科大学校友会総会及び懇親会が大阪市中央区のスィスホテル南海大阪で開催された。当日はあいにくの天候にもかかわらず、全国から多くの校友が参加し、教職員・在学生、関係者をあわせ200名を越す参加者が会場に集まった。

総会の開会に先立ち、校友会設立時から校友会活動を献身的に支え、指導していただいた村下博副学長(法学部教授・常任幹事)、福本憲男先生(地域総合研究所客員教授・常任幹事)の逝去を悼み、参加者全員で黙祷を捧げた。

総会は北垣義弘常任幹事の司会進行のもと午後4時に開会した。冒頭、伴井敬司校友会会長の開会挨拶があり、続いて校友会顧問である藤本和貴夫学長から挨拶を兼ねて、パワーポイントを使用しながら大学の近況報告と今後の大学の目指す方向性について具体的な説明があった。



その後、三戸泰樹常任幹事から「2008年度事業報告及び収支決算書」、「2009年度事業計画及び収支予算書」について詳細な報告・説明が行われた後、司会の北垣義弘常任幹事から2009年度新たに校友会の新役員として就任された方々の紹介が行われた。

続いて、校友会設立10周年を記念して、これまで校友会活動に尽力された方及び大学・校友会の発展に貢献された方の表彰が行われた。表彰対象者の沢勲名誉教授、故村下博法学部教授、故福本憲男名誉教授、太田羊一元学生課長、そして大学卒業後、地元の和歌山県を拠点に活動を行い、昨年、和歌山県文化奨励賞を受賞したJ-POPアーティスト『ウィンズ』の平阪佳久氏(1981年・経済学部卒)には、伴井会長から表彰状と記念品が贈呈された。

11回目の開催となった総会は、終始厳肅な雰囲気の中で執り行われ、午後5時、無事閉会となった。

## 再会を、10周年を喜びあう 笑顔の輪、談笑の輪

総会、特別講演会終了後に行われた懇親会は、吹奏楽部による演奏で参加者を会場に迎え入れ、伴井会長、濱田亜紀幹事による和太鼓演奏で幕を開けた。

懇親会は石山陽浩幹事の司会進行のもと、新たに校友会副会長に就任した八瀬林肇氏から開会の挨拶が行われた後、来賓の田中誠太八尾市長、山中富美子教育後援会会長から祝辞が述べられた。安田公治副会長の乾杯の発声により懇親会が本格的にスタートすると、会場のおちこちで旧友との久々の再会を楽しむ、同級生の輪、先輩・後輩の輪、卒業生と教員の輪が広がった。しばしの歓



談の後に行われたクイズ大会や大抽選会などでは、回答者の珍回答や準備された豪華賞品に参加者たちが一喜一憂し、会場内は大変な盛り上がりを見せた。

懇親会の最後は、校友会副会長である能塚正義学長補佐から閉会の挨拶が行われた後、毎年恒例となった参加者全員による学歌「われらが白き学舎に」が斉唱され、おおいな盛り上がりをもせた懇親会も無事閉会した。

懇親会終了後は、校友との別れを惜しみながら来年も会うことを約束し、別れを惜しみながらの散会となりました。



## 校友会創立10周年おめでとうございます

大阪経済法科大学 学長 藤本和貴夫



本日は校友会設立10周年記念総会の開催、誠にありがとうございます。

本学は、1971年に設立され、まもなく創立40周年を迎えます。これまで38,730名の卒業生を社会に送り出してきました。

大阪経済法科大学は教育改革に継続して取り組んでおり、とりわけ本学独自の特修講座(コース)の強化は大きな成果を上げています。今年度の法科大学院合格者は15名、公務員試験合格者28名、上場企業就職者144名です。また、資格・検定試験の合格者は876名となりました。

さらに、学生のさまざまな問題に対する相談窓口の機能を果たす「学習支援センター」や教育の質の向上に取り組む「大学教育開発支援センター」も設置しています。昨今の経済情勢を反映して就職状況には厳しいものがありますが、文部科学省の「大学教育・学生支援推進事業」に本学の申請した「不況下における学生の個別ニーズに対応した就職支援体制の構築」が採択されました。

近年、大きく展開しつつあるものに地域との連携があります。地元八尾市との関係では、本学と八尾市立図書館や八尾市国際交流センターとの間に協定が結ばれていますし、本学を会場として毎年「いきいき八尾環境フェスティバル」が開催されています。また、絶滅危惧種である「ニッポンバラタナゴ」の保護活動や河内木綿の栽培・里山保全活動など、環境問題を軸とした多様な取り組みが進んでいます。

学生が快適に過ごせる空間をさらに充実するために、2011年春竣工予定の「新学生ホール棟(仮称)」の建設が始まりました。1階がレストラン、2階がカフェ、3階がプレミアムホールになっていて、この「新学生ホール棟」からは大阪平野が一望の下に見渡せます。

大阪経済法科大学は創立40周年を機に、21世紀に活躍する人材を更に多数育成するため、今後とも努力していく所存です。校友会の皆様には、後輩たちのためにご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

漫才の絶頂期には、押入に3億円入った。プーム後のどん底を経験し、佐賀のがはいばあちゃん、600万部を越すベストセラーとなつて再び脚光を浴びるようになった。まさしく、天国と地獄を経験した島田洋七氏がさまざまな秘められたノウハウを得意のマシンガントークで1時間休みなくしゃべり続けた。日本で一番講演回数が多く(推定4300回)と豪語するだけあって、島田洋七氏の巧みな話術と豊富な話題、ユーモア溢れる講演内容に参加者は爆笑しながら、熱心に耳を傾けていた。

# 第11回 校友会総会・懇親会

## 出会いは人を変え、時は人を育てる

大阪経済法科大学 校友会会長 伴井敬司



本日は第11回総会、校友会創立10周年記念総会に多数の方々にお集まりいただきました。全国の卒業生の皆さんが約150名、それに来賓、大学関係者、在校生の方々等で約200名という規模で本日の総会を開催できることを非常にうれしく思っております。本当にあり

がとうございます。また、長年の念願でありました校友会事務局室を大学本部棟内に設置することができました。今後事務局力量強化という課題を達成する上で大きな基盤を確保することができました。校友のみならずが大学を訪問の際には是非お立ち寄りくださるようお願いいたします。

本日の資料に『出会いは人を変え、時は人を育てる』という言葉が載っていますが、これは私の大変好きな言葉で、10周年記念事業のテーマとして幹事会で採用していただきました。

大阪経済法科大学に入学している人々と出会い、その後社会に出て、時間の経過がその人を育ててくれる。私は出会いの多さがその人の人格形成にとって非常に重要な要素であると思っています。校友会という、大阪経済法科大学を卒業したという小さなつながりではありますが、それを通じて、みなさまがいろいろな出会いを楽しみ、その出会いの中から自分の人生訓や生き方を学んでいただきたい、と思います。

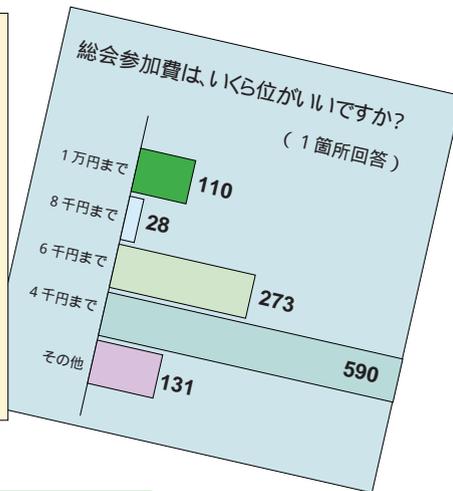
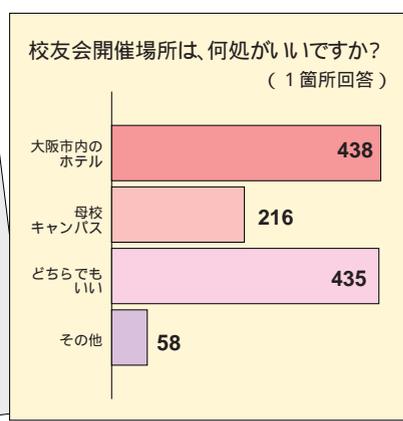
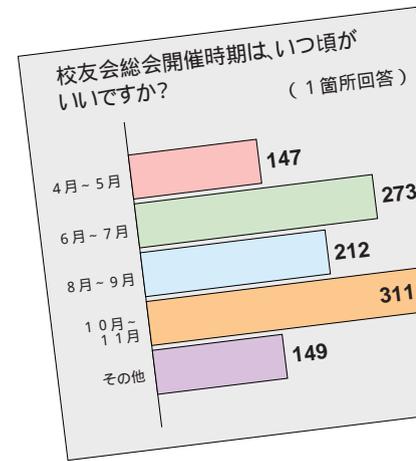
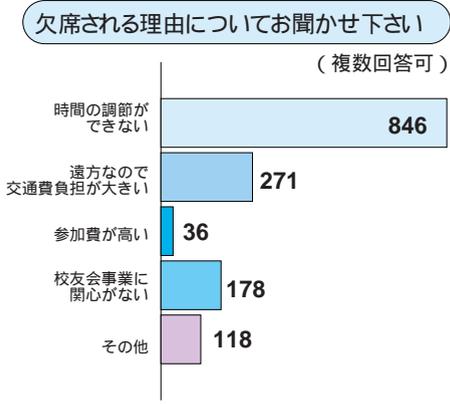
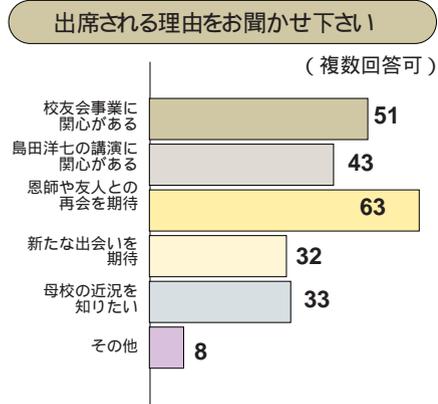
本日より参加のみなさんが、総会後の講演会、懇親会において、いろいろな方に積極的に声をかけていただいて、出会いを求めていただくということをお願いしまして、開会の挨拶といたします。



総会終了後、校友会設立10周年を記念した特別講演会が開催された。佐賀のがはいばあちゃん、島田洋七氏を講師に迎え、「私が経験した天国と地獄」というテーマで講演が行われた。漫才の絶頂期には、押入に3億円入った。プーム後のどん底を経験し、佐賀のがはいばあちゃん、600万部を越すベストセラーとなつて再び脚光を浴びるようになった。まさしく、天国と地獄を経験した島田洋七氏がさまざまな秘められたノウハウを得意のマシンガントークで1時間休みなくしゃべり続けた。日本で一番講演回数が多く(推定4300回)と豪語するだけあって、島田洋七氏の巧みな話術と豊富な話題、ユーモア溢れる講演内容に参加者は爆笑しながら、熱心に耳を傾けていた。

# 校友会総会・懇親会アンケート調査結果

第11回校友会総会の出欠ハガキによって校友会総会・懇親会についてのアンケート調査を行いました。回答数は1466通でした。ご協力ありがとうございました。回答結果は以下の通りです。校友会事務局ではこのアンケートで寄せられた意見を今後の事業の参考にさせていただきます。



## 校友会事業に加えてほしい企画について(自由記述)

- 有名芸能人、文化人など、旬の人による講演会(府知事、スポーツ選手、タレント等)
- 合同企業説明会(校友対象)などの就職支援企画
- 社会人向けの講座を開講して、学ぶチャンスを与えて欲しい
- 母校訪問(総会后バスツアー等)
- 婚活事業(お見合いパーティー等)
- 講演会(学長、卒業生)
- 経法祭のように体育館などで(アーティストの)コンサート
- 経法祭にリンクした開催日の設定をお願いします
- 在学生達による部活動等大学の近況報告を実演やビデオ映像で教えて欲しい

- 卒業生等で第一線(一流企業など)で活躍している人との座談会
- 細川茂樹さんが来てくれたらうれしい
- 地方支部(長崎県・鹿児島県など)を立ち上げてほしい
- もっと交流の場を増やしてほしい
- 今の世相を反映してエコ活動的なもの
- 現役学生との交流(懇談会、クラブ生との交流会等)
- 異業種交流会
- 遠方の人のために安く止まれるホテルを紹介する
- 八尾、瓢箪山から学校まで往復シャトルバス運行
- 校友会総会に参加出来ない人の為に、校友会総会の様子をネットで閲覧出来るように

- ホームカミングデーを充実してください
- 卒業(学籍年度)年度コーナー等がほしい
- 先輩・後輩の混じりあい企画
- できれば校友会ツアー(旅行)等
- 演奏会鑑賞会など文化企画
- 1回目の卒業生は今なにを?などを知りたいです
- ゴルフコンペ
- 卒業生で会社を興した人の講演が良いと思う
- 大学の近況報告



## 待望の校友会事務局室が開設



校友会事務局の部屋が9月に開設されました。これまでは学生課事務室の一角にデスク、パソコン、FAX付電話機を設置して事務局としての機能を果たしてきましたが、今後は独立した事務室で校友会事務を行うことができるようになりました。

校友会設立10周年を機に学内に校友会の独立した部屋をということで、幹事会において設置に向けて議論を重ね、今年に入り、伴井会長が先頭にたって大学と調整を行いながら検討を重ねた結果、ようやく実現に至ったものです。

新しい事務局室は学内の本部棟4階にあります。楽音寺キャンパス北側にある7階建ての本部棟の玄関に入り、エレベーターで4階に上がればすぐのところ。窓からは生駒の山並みを望む景色のよい部屋です。事務局室には、新しく応接セットや資料棚、食器棚や冷蔵庫を置けば、パソコンの更新、複合コピー機の導入などの事務機能の充実もはかられました。

校友会事務局では、この事務局室を拠点に事務局機能を飛躍的に強化し、10周年を機に新たな校友会事業の発展に努めていきます。

ご来校の折りは新装なった校友会事務局室にぜひお立ち寄りください。



## 2008年度 女性校友の集い

### ～ルミナス神戸ランチクルーズ～



今年度の女性校友の集いは、2009年3月15日(日)に行われた。今年の企画はレストラン船「ルミナス神戸」に乗って、豪華ランチをいただきながら神戸沖をクルーズするというもので、女性校友、本部役員など19名の会員が参加した。

ルミナス神戸船内の会場に入ると、まず船室(VIPルーム・ノルマンディ)の豪華な雰囲気に参加者からは歓声があがり、早速見晴らしの良い船室の窓から見える景色や、客室を写真に収める姿が見られた。

北垣幹事の司会進行により、2008年度女性校友の集いは開会された。阪本常任幹事の挨拶の後、中津常任幹事の乾杯があり、それぞれブッフェテーブルに向かった。その頃にはすっかりリラックスして打ち解けた雰囲気になっており、参加者は談笑しながら料理を堪能していた。

当日は爽やかな晴天に恵まれ、船が淡路島に近づき明石海峡大橋が見えてくると、賑やかに歓声を上げながらデッキに向かい、再び撮影会となった。春風に揉まれながらも終始笑顔で写真を撮りあう姿が見られた。

食事の進み具合を見計らって、参加者が各自自己紹介を行い、学生時代の思い出やそれぞれの近況を語り合った。参加者は懐かしい思い出にひたりながら、ゆったりとした時間の中で楽しいひとときを過ごした。

約2時間のクルージングはあっという間に過ぎ、下船してからも皆さん名残惜しげに総会や来年の集いで再会を約束し、それぞれ観光や散策にと向かった。



## 学長・会長対談

経法大創立40周年  
校友会創立10周年

# さい ならま なる 飛躍へ

### 大学を取り巻く環境は激変

**藤本** 今日『オープンキャンパス』で朝から大学に行っていました。伴井会長の入学された頃にはなかったと思いますが、今年は『オープンキャンパス』を6月から始めて9月まで5回予定しています。受験生にできるだけ本学を知ってもらいたいし、本学に興味のある人に受験してもらいたいという思いからです。

今日は朝の間天気よかったですので、保護者の方も大勢参加されていました。最初に大会議室に入ってもらって大学の概要を説明した後、参加者をいくつかのグループに分けて在学生在がキャンパスツアーといって、学内案内するんです。

いま、大学は大変な冬の時代を迎えていて、いかに大阪経済法科大学を知ってもらおうかと努力しています。伴井会長が入学した頃はどんな状況でしたか。

**伴井** 私より2～3年先輩がいわゆる団塊の世代と呼ばれる世代でして、それぞれ18歳人口は現在の2倍以上いました。大学の数も今と比べると少なかったですし、大学が入ってくださいというよりは、受験生が何とか入れてくださいという時代でしたね。

私が入学した頃は、大学への進学率も20%台だったと思います。現在は50%前後になっているわけで、大学が学生を集めるために催しをしたり、ピーアールをしたりということはなかったですね。18歳人口が減少しているのに、大学の数はどんどん増えている、やはり時代の違いというのを感じますね。

校友会の会長をやらせていただいているからかもしれませんが、オープンキャンパスの告知やさまざまな大学の広告が新聞に連日のように掲載されているのを見て、学生募集に各大学とも苦戦しているのだらうと推察しています。学長がおっしゃったように経法大の特色をどういう形で高校の先生や保護者にわかってもらうか、ましてや受験生にどうやって理解してもらうかというのは、本

当に難しいだらうなと思います。

**藤本** そういう意味で、建学時から「経済と法律が社会の両輪であり、この二つの学問を修めることによって無類の人格を形成することができる」という理念を掲げて大学運営をやってきました。現在では寄付行為にも明記されています。こういう競争の時代であるからこそ、経法大も大学の目的や建学の理念を再度確認して、社会に向けてアピールしなければならないと思っています。伴井会長が入学された頃も経済と法学を両方学ぶということが奨励されていたか。

**伴井** そうですね。もともと一期生の私たちは各学部100人余り、1学年は経済学部と法学部の両学部あわせても250人ぐらいでした。授業の交流は今と同じようにありました。確か、30単位までは他学部の単位が卒業単位として認められていたと思います。私は法学部なんですけど、簿記論とか財務諸表論の講義を受けました。

### 地域に立脚した大学を目指して

**藤本** 本学の創設のときに大阪の財界から積極的なバックアップを受けました。おそらくオール大阪で経法大をバックアップしていこうというのがあったのだらうと思います。

**伴井** それは、私は1期生ですから、進路指導部の先生からそれこそ耳にたこができるほど言われましたね。経法大は新設大学だけれどもこういう方々がバックアップしているの、将来性があるよといわれましたね。

**藤本** そういう意味で言いますと、最近、地域との連携とか共存といったことがよくいわれるようになりましたが、建学時にはそういった方向性というものがあったのでしょね。今、まさに地域との連携ということをもう一度捉え直さなければならぬ時ではないかと思っています。

**伴井** そうですね。実際、八尾市にある唯一の大学として地元との連携や協力関係の構築といったことは多方面で

可能性があると思いますが、もっと活用していけばいいのではないかと思います。

**藤本** 私は学長になって今年で5年目ですが、地元との関係の強化に努めてきました。最近はフィールドワークで学生が地域の企業を回るということもしているので、地元との関係はより密接になっています。

中小企業といっても、八尾の場合はハイテクの独立した中小企業で、東大阪の場合は下請けの中小企業が多いですね。生産額も八尾市が東大阪を抜きましたが、やはり元気な『中小企業の町』といえど東大阪ということになってしまふ。八尾は宣伝の面で東大阪に比べて遅れているのではないかと思います。八尾にある唯一の大学として、八尾の宣伝を大いにやっていきたいと考えています。

**伴井** 地域との連携といってもすぐに形に表れるものとそうでないものがあるように思います。地域の人が連携の状況をよく知らないということもあると思うのですが。

**藤本** やはり、大学ができることとできないことがあるわけですね。八尾市にある中小企業の企業分析をして、それを本として出版したりとか。経法大には出版部があり、大学出版部協会に加盟しています。これは全国700余の大学のうち、31大学しか加盟していません。東大阪の宣伝上手なのは、いろんな人に東大阪について書いてもらっているからです。我々が八尾市や企業と共同研究をして、その成果を出版部を通じて広く広報することができれば、これは大きな力になると思います。そんなことをいま考えています。



**伴井** 大学ですから学術の面から地域連携を進めていくことには大賛成です。他方、地域と大学の連携といえば、やはり学生が主役になってほしいという気持ちがあります。インターンシップが盛んになってきていますが、まだまだ一部の学生が参加する状況ではないでしょうか。もっと幅広い学生が地域と関わるような活動が必要なのではないかと思います。

学生は大学で学問的な知識を修得するというのが本分ですが、学生を成長させるためには社会との接点が重要だと思います。大学で学んだことを地域で実践し、体験する、そのことで本当に学生が成長していく。その意味では、教員が中心になって連携すると同時に学生自身が地域連携の主役になっていくことが必要ではないでしょうか。

**藤本** そういう意味では、4年前から『環境アニメィティッドやお』主催の『いきいき八尾環境フェスティバル』が経法大を会場にして開催されています。大阪経済法科大学と八尾市が共催しています。このイベントには準備段階から多くの学生が参加して、地域の人々と一緒に活動しています。

最近大学の裏山に大学の土地がある

ということが分かりました。学生にも協力してもらってどこからどこまでが大学の土地なのかはつきりさせることができました。いま道をつけているところです。龍谷大学が瀬田にキャンパスを作ったときに、キャンパスの林の中に大鷲の巣があることが分かって、それをきっかけに大学内に里山を作りました。滋賀県とも協力して、動植物の実態調査をして本を出しています。里山を持っている大学は全国にいくつかあって、それらの大学が連合を作っています。経法大にも里山があるということが分かったので、この連合に加盟して里山保全のための取り組みを学生と一緒にやっていきたいと考えています。

**伴井** 学内のふれあい池には絶滅危惧種の『ニッポンバラタナゴ』が生育していると聞いたことがありますし、学内で河内木綿を栽培しているということも聞きました。

**藤本** 今日のオープンキャンパスでも、ふれあい池で学生たちが池に入って水質調査をしたり、これまでの調査結果の展示などをして、受験生に見せていました。学生のいろんな形での地域活動が動き出しているといえます。

## 特色ある教育を強化

**伴井** 何年前かに法科大学院が設置され、司法試験を受験するためには、まず法科大学院に進学しなければならないという制度が作られ、経法大からも毎年多くの学生が進学していると伺っていますが。

**藤本** 法科大学院へは2008年度は15名合格しています。その他に公務員に28名、上場企業に144名就職しました。厳しい環境の中でも学生諸君は大いに健闘しています。また、昨年1年間で867名の学生が資格検定試験に合格しました。

**伴井** 一人多資格ということを大学として取り組まれているとのことですが。

**藤本** 2004年度は399名だったんですが、学生諸君が大変熱心に取り組んだ結果、ここ数年800名台の合格者を輩出しています。資格をとるということは、目標を持って学習するということで、結果的に就職にも有利になるということで、大学として積極的に奨励しています。受験生や進路指導の先生にお伺いしても、経法大の特色としてあげられるのが『資格に強い大学』ということで、社会的にも広く認知されています。

資格講座を担当しているのはエクステンションセンターということなんですけど、これは他大学にもありますけれども、専任教員が講座の一部を担当したり、学生の相談に乗ったりといったことをしていることで成果があがるのだと思います。

公務員コースを作るとき、教員が公務員試験の内容を知っているかという話になり、試験問題を取り寄せて議論しました。そこから、正課の中でも公務員試験に対応した内容を取り入れることが必要だということになりました。

**伴井** いろんな大学が資格講座を開設しています。経法大はその意味ではフロンティア的な役割を果たしてきたんですね。それで、受験生は経法大の

取り組みを意識して受験する、こういうことでしょうか。

**藤本** その通りです。それから、もう一つ重点的に取り組んでいるのが国際交流です。外国語を学んだということだけではなく、実際にその言語が使われている所について、コミュニケーションする、これが大切だと思います。海外には姉妹校がたくさんありますので、留学生もたくさん受け入れています。経法大の学生もたくさん海外に行っています。

毎年100人以上の学生が海外に行っています。入学生は500名前後ですから、学生の海外渡航率は他大学と比較するとかなり高いのではないかと思います。とりわけ、法学部・経済学部といった社会科学系の大学ではおそらく全国的にもトップレベルだと思います。

**伴井** そうですか。海外に出て、いろんな人々とコミュニケーションして、視野を広げる、異なった価値観に接することは学生にとって本当にいい経験になるでしょうね。資格講座にしても、海外交流にしても、他大学も取り組んでいるけれども、経法大は他大学以上の成果を上げられていることですね。

教育の面において、様々な成果を上げられているということはおわかりました。その上で、卒業生から一つ大学にお願いしたいことは、私自身は卓球部出身なんですが、最近の課外活動は少し元気がないのではないかと、何とか課外活動を活性化してほしいという思いがあります。新聞などで活躍する後輩のニュースに接すると母校を思い出してうれしくなるんですね。総会や支部の会合などに校友が集まった時、よくそんな話が出ます。

**藤本** 実は、今年軟式野球部が一部リーグに復帰しました。テコンドーと卓球は伝統的にいい成績を収めていますし、柔道部は今着実に力をつけているところなので、近いうちに結果を出してくれるものと期待しています。大学として課外活動の活性化はぜひ推進していきたいと考えていますし、同時に成果を社会にアピールする広報活動が重要だなと思います。

## 校友会と学生との接点を

**伴井** 私が校友会の会長をやらせていただいて10年になるんですが、経法大はこの10年で大きく発展したと実感しています。校友会としても大学の発展に何らかの形で貢献したいと考えています。

校友の間で出ているのが、実際に社会の状況についてよく分かっている卒業生が大学の講義の中で学生に直接話ができる機会がもてればいいな、という意見です。何も難しい話をしようというのではなく、実際の社会はこんなところだよ、こんなことを身につけておくと社会に出たときに役に立つよといった、経験を通じた話ができるのではないかと、いろんな形態が考えられると思います。

また、卒業生の中にはキャリア開発講座の中で話した方も何人かいますが、教室の中では一方的な話になってしまい、なかなか本音で話をするのは難しいので、その点、昨年竣工し

た阪南キャンパスであれば、日常的な場から離れて、それこそ腹を割った話合いの場がもてるのではないかと、という意見もあります。

いずれにしても、校友会として現役の学生に接点を持って、何らかの形で先輩の役に立ちたいと考えているということです。

**藤本** それは大変ありがたい提案ですね。いままでも卒業生で警察官の方とか、教師をされている方に大学に来ていただいて学生に話をしていただいているんですが、もっと幅広い校友の方から直接話を伺えるというのは、大学としては大変ありがたいことだと思います。

**伴井** 私の認識として、経済学部も法学部もいろんなコースに分かれていますので、公務員コースの学生に公務員になった卒業生が話をするというのはよく分かるのですが、やはり一般企業に就職する学生の方が割合としては多いのではないかと思います。就職課からの話ではなく、一般企業に実際に勤めている卒業生が直接話をするというのが、学生にとっても参考になるのではないかと思います。

**藤本** キャリア教育は非常に重要で、大学としても重点的に取り組んでします。それが評価されて今年度文部科学省が募集した『大学教育・学生支援推進事業』に、本学が申請した取組『不況下における学生の個別ニーズに対応した就職支援体制の構築』が採択されました。また、昨年からは阪南キャンパスを使って就職対策の合宿もしています。伴井

会長からの提案は、ぜひ、実現に向けて検討したいと思います。

## 創立40周年を機にさらなる飛躍

**藤本** 本学も2011年に創立40周年を迎えます。現在、楽音寺キャンパスに『新学生ホール棟(仮称)』の建設を始め、2011年春竣工予定です。もっと早くできないかと急がせているのですが、授業の関係でなかなか難しいようです。学生が快適に過ごせる空間が是非必要だということから、1階がレストラン、2階がカフェ、3階がプレミアムホールになっていて、この『新学生ホール棟(仮称)』からは大阪平野が一望の下に見渡せます。

**伴井** 創立40周年を機に経法大が大きく変わっていくということでしょうか。経済と法律が車の両輪のようにという建学の精神の話がありました。同じように大学と校友会も車の両輪のように協力して発展していければいいと思います。経法大が社会で高く評価されるようになれば、卒業生として誇りをもって周りの人に話すことができます。同じように、社会的に活躍する卒業生がいれば、大学も、彼は、彼女は本学の卒業生ですといえる。お互いの活躍がそれぞれ切磋琢磨する関係があって、本学が発展していくのではないのでしょうか。

**藤本** それは肝に銘じていまして、大学は在学生だけに責任を持っているのではなく、卒業生に対しても責任を持っていると常に意識しています。

**伴井** 大阪経済法科大学が創立30周年を迎えた時、



## 学長・会長対談

一般的に大学が社会的に認知されるには30～40年という年月が必要だという話を伺いました。そういう意味からいえば、まもなく創立40周年を迎えます。経法大という名前を聞けば、お互いに胸を張れるような方向に進みたいと思います。

ある地方支部の校友から、何か商品を仕入れるとき、まずその会社に経法大の卒業生がいるかと聞いて、いればその卒業生を担当者にするという話を聞きました。絶えず、地元で卒業生がいるのかということ意識していることでした。卒業生が母校との繋がりを意識していれば、先輩として後輩のために援助をしたいという気持ちになると思います。

校友会も設立以来ようやく10年が経過して、学長のご配慮により学内に事務局を設置することができました。卒業生が母校を訪問した際には、気軽に校友会事務局を訪ねることができるようになり、感謝しています。

**藤本** これからも大学は校友会との連携を強化し、大学の発展のために互いに協力していきたいと考えています。忌憚のない意見交換を今後とも継続していきたいでしょう。

**伴井** 本日は学長から大変有意義なお話を伺うことができ感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。



伴井敬司校友会会長



藤本和貴夫学長

# 2009年度 校友会事業計画

2009年6月6日開催の校友会幹事会で承認された2009年度校友会事業計画及び収支予算書は以下の通りです。既に実施済みの事業については、概略を記載しています。

## 1 校友会設立10周年記念事業

次の3点を柱として10周年記念事業に取り組む。

- 1) 校友(卒業生、在学学生、教職員)の交流促進
- 2) 在学生に対する校友会の認知度向上をはかるための諸施策の展開
- 3) 活動基盤の整備と発展につながる事業の推進

## 2 第11回総会・懇親会開催

校友会総会を10周年記念の総会・式典にふさわしい規模と内容で開催した。当日参加した校友(卒業生・在学学生・教職員)の親睦と交流を深めることができた。総会・懇親会の企画運営は、校友会設立10周年記念事業委員会が行った。

日時 2009年7月25日(土)16時より  
会場 スイスホテル南海大阪  
詳細については、2-3頁をご覧ください。



## 3 支部活動支援

2009年度は、10周年記念事業と連動しながら支部組織の活性化に向けた以下の取り組みを行う。

### 1) 支部活動支援

10周年基盤整備事業の一環として支部活動支援の強化を行う。本部と支部の連携を強化するために、組織部会を中心に役割分担・支援方法等の調整を行う。

## 2) 第4回全国支部長会議の開催

各支部の取組の経験交流や支部間の連携強化を図ることを目的として、第4回全国支部長会議を高知県「高知新阪急ホテル」を会場として、2009年6月27日(土)に開催した。全国支部から18名の支部長及び本部役員が参加して活発な議論が行われた

詳細は12頁参照



## 3) 支部総会未実施支部への支援

本部役員の支援担当を明確化し、2009年度中に支部総会未開催支部において総会が開催できるよう支援する。

## 4) 地域支部・職域支部の設立支援

新たな支部づくりと職域支部設立に向けた支援を行う。地域支部・職域支部設立の要望のある地域と協議を行い、具体的な支部設立を支援する。

## 5) 地方父母懇談会への協力

全国5地域(香川・岡山・広島・高知・沖縄)で開催された父母懇談会に校友会支部として参加し、教育後援会会員と懇談を行った。

## 4 広報活動

### 1) 校友会報14号の発行

校友会報14号を10周年記念特別号として、増ページして内容を充実させて発行する。

### 2) 校友会紹介リーフレットの作成

卒業生・入学生に校友会を紹介するパンフレットの内容をより充実させ、配布する。

## 3) 校友会ホムペ・ジ活用・充実

行事予定、活動報告、各地方支部の情報など、定期的に内容を更新し、校友に新しい情報を発信する。校友会伝言板を活用した校友との双方向コミュニケーションを活性化させる。

## 5 在学生支援

### 1) 課外活動援助金制度

在学生支援の内容を個人の経済支援から課外・自主的活動支援に転換する。したがって、校友会奨学金制度を廃止し、新たに校友会課外活動援助金制度を設け、学生団体の申請により、課外活動に必要な経費の一部援助を行う。

### 2) 経法祭参加企画

10周年記念事業「ホムカミングデー」として、第38回経法祭の期間中に開催実施する。ホムカミングデーの企画運営は、10周年事業委員会及び企画部会が行う。



### 3) 卒業記念品の贈呈

卒業生に校友会のネーム入り学位記カバーを贈呈する。

### 4) 卒業式祝賀企画

卒業式終了後、卒業生が同級生、教職員と懇談ができるよう軽食を提供する。

## 6 組織運営・事務局体制

### 1) 組織体制の整備

幹事会のもとに2009年度は常任幹事会、10周年記念事業委員会、組織部会、企画部会、広報部会を置き、組織体制を整備する。

### 2) 事務局体制の強化

校友会事務局室を学内に設置し、事務局体制を強化する。

## 2009年度校友会収支予算書

2009年4月1日から  
2010年3月31日まで

収入の部				(単位:円)
項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 校友会費				
準会員	14,335,000	16,450,000	2,115,000	
正会員	300,000	300,000	0	
特別会員	100,000	100,000	0	
2. 総会・懇親会参加費	450,000	300,000	150,000	
3. 10周年記念事業 積立金繰入	10,000,000	0	10,000,000	
4. 受取利息	22,400	22,400	0	
小計	25,207,400	17,172,400	8,035,000	
前年度繰越金	8,403,236	9,014,768	611,532	
収入の部合計	33,610,636	26,187,168	7,423,468	

支出の部				(単位:円)
項目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備考
1. 総会				
総会等運営費	5,400,000	2,150,000	3,250,000	総会・講演会・懇親会開催費等
会議費	200,000	0	200,000	総会運営企画会議等
印刷製本費	150,000	72,000	78,000	総会案内状印刷費
旅費交通費	1,000,000	600,000	400,000	支部役員等出席旅費
通信費	1,500,000	1,400,000	100,000	総会案内状発送費
2. 幹事会				
会議費	800,000	300,000	500,000	幹事会、常任幹事会等開催費用
旅費交通費	500,000	300,000	200,000	支部役員等幹事会出席旅費
3. 支部活動等支援				
会議費	800,000	800,000	0	支部総会・支部長会議開催費等
旅費交通費	950,000	950,000	0	支部総会支部長会議の旅費等
活動援助費	900,000	400,000	500,000	支部運営・企画補助費等
支部設立準備費	300,000	300,000	0	支部地域支援費等
懇談費	350,000	250,000	100,000	父母懇談会(地方5会場)共催費
4. 会報・広報				
リーフレット	200,000	0	200,000	新入生、卒業生配布用
印刷製本費	1,700,000	1,500,000	200,000	校友会報印刷費
通信費	1,600,000	1,600,000	0	校友会報発送費
報酬委託手数料	300,000	600,000	300,000	校友会報発送代行費、HP制作費
5. 学生支援				
奨学金費	0	1,920,000	1,920,000	2009年度より廃止
卒業記念品等	600,000	700,000	100,000	学位記カバー贈呈
卒業祝賀企画費	1,000,000	1,000,000	0	卒業祝賀会開催費
経法祭参加費	700,000	300,000	400,000	企画運営費、ホムカミングデー
学生活動援助費	1,800,000	350,000	1,450,000	課外活動費、通信費等援助金
6. 共通・事務費				
印刷製本費	100,000	100,000	0	八ガキ等
消耗品費	150,000	200,000	50,000	事務用品等
通信費	400,000	400,000	0	支部活動通信費、電話費等
報酬委託手数料	20,000	50,000	30,000	振込手数料等
人件費	1,200,000	1,200,000	0	事務局人件費
渉外費	50,000	100,000	50,000	
雑費	50,000	50,000	0	
7. 10周年記念事業				
10周年記念事業積立金繰入	1,000,000	1,000,000	0	
10周年記念準備経費	0	300,000	300,000	
設備・備品等	3,000,000	0	3,000,000	校友会事務局設備(調度・備品)
10周年記念事業企画費	530,000	0	530,000	学生団体等交流費等
予備費	300,000	0	300,000	
8. 予備費	1,000,000	1,000,000	0	
小計	28,550,000	19,892,000	8,658,000	
次年度繰越金	5,060,636	6,295,168	1,234,532	
支出の部合計	33,610,636	26,187,168	7,423,468	

## 第4回全国支部長会議開催される

6月27日(土)高知市にある、高知新阪急ホテルにおいて、第4回全国支部長会議が開催された。

会議には開催地である高知支部から小橋光生支部長、清遠敬三會計監査、弘田哲也支部幹事、山下浩希石川支部長、中町守人愛知支部長、中須秀治三重支部長、樋上有司岡山副支部長、榊田博昭広島支部長、上田英雄香川支部會計監査、新里靖沖繩副支部長、そして本部からは藤本和貴夫学長・顧問、伴井敬司会長、安田公治副会長、八瀬林肇副会長、橋本久常任幹事(法学部教授)、阪本誠常任幹事、西澤十三夫常任幹事(事務局)、田中詩織(事務局)が参加した。

高知支部役員の清遠敬三氏の司会で開会し、冒頭任期途中でお亡くなりになった村下博副会長(4月逝去)及び福本憲男常任幹事(6月逝去)に出席者全員で黙祷し、「冥福をお祈りした。

続いて伴井敬司会長から、全国支部長会議が高知支部のご尽力のお陰で開催できた。7月には10周年記念の総会、秋には経法祭もある。こうした行事にできるだけ多くの校友が集い交流してほしい。わたしは、「人の器は、その人が出会う人の数で決まる」と常々考えている。そうした意味で、校友会は出会いの場をつくることができる。ぜひ忌憚のない意見を交換していただき、交流をはかっていただきたい(要旨)との開会挨拶があった。



支部総会を開催した。会そのものはよかったが、地元校友の出席者が少なかった。電話で呼びかけるなど参加者増の努力や開催告知の方法をもっと考える必要があると思う。

支部の活性化のために隣県と合同で支部総会・懇親会を開催してはどうか等を話し合っている。

### 支部活性化について

続いて高知支部を代表して小橋光生支部長から挨拶があり、また藤本和貴夫学長からは、2011年に大学創立40周年を迎える。現在、「新学生ホール棟(仮称)」の建設が予定されている。この間全学で取り組んできた『1人多資格』の方針は、具体的な成果として実を結んでいる」等、大学の近況報告を兼ねて挨拶があった。

西澤十三夫常任幹事が2009年度事業計画及び10周年記念事業等について報告を行った後、各支部から支部活動報告が行われた。

以上の報告・説明をもとに討議に入り、2009年度に展開予定の校友会設立10周年記念事業の取り組み、校友会全体と支部活動の現状把握と活性化に向けた課題等について熱心な討議が行われた。討議の中で出された主な意見は以下の通り。

### 校友会事業について

校友会行事への女性校友の参加促進は重要である。

校友のニーズの把握が不明確だから人が集まらないのではないかと。また、在学生にも校友会を理解してもらおうような働きかけが重要ではないか。

就職活動をする学生のサポートとして、校友との定期的な懇談会の開催、可能なら合宿をしたらどうか。

校友会のどんな事業も、まず人に集まってもらうことが大切。どうしたらそうできるかを工夫し、実行することが大切。また、大阪経済法科大学が発展することが一番卒業生である校友が「喜び」なことだと思つ。それを応援するのが校友会の役目である。

今回は、全国支部長会議終了後、高知支部総会参加者と合同で懇親会が開催された。

## 支部便り



### 今年も地域支部役員、父母懇談会で在学生父母と懇談

毎年6月から7月にかけて、全国10会場で在学生父母対象の父母懇談会が開催される。校友会では、2006年度からこの父母懇談会に参加して、ご父母と校友会地域支部役員との懇談会を行っている。2009年度は岡山支部、広島支部、高知支部、香川支部、沖縄支部の計5支部から支部役員が参加した。

広島会場の懇談会では、能塚校友会副会長・学長補佐から開会挨拶があり、柘田支部長の挨拶の後、懇談をおこなった。最初はお互いが堅い表情であったが、時間が経つに連れ、和やかな雰囲気



懇談が進められた。当日参加した支部役員から、それぞれの学生時代の勉強や就職活動での苦労話、現在の仕事について語られると、父母が興味深そうに聞き入っていた。

支部役員の積極的取り組みにより、父母と活発な意見交換が行われ、校友会地域支部の新たな活動として徐々に定着してきている。

### 第9回沖縄支部総会



2009年3月14日(土)宜野湾市の『味処 卓(ゆたか)』において、第9回沖縄支部総会が開催された。冒頭新里副支部長より、今支部総会には若い世代の会員が複数参加しており沖縄支部の活性化に大きな力となる。また、支部総会だけでなく、各種イベントを企画・実施し、沖縄支部会員間の交流および在学生との交流を積極的に進めていきたい、旨の開会挨拶があった。続いて本部より出席

した三戸常任幹事より、沖縄支部は、全国10支部の中でもいち早く設立された支部であり、今後とも沖縄の地で若い力を結集し、幹事会とともに校友会発展に向けて頑張らしよう、との挨拶があった。

議事では、姜常任幹事より、2009年度事業計画案の要点報告が行われた。続いて新里副支部長から現役員全員の留任と4名の新任幹事の提案が行われ異議なく承認された。

その後の意見交換では、①夏休帰省時期を活用し、卒業生と在学生および沖縄でのクラブ合宿生とのバーベキュー大会で交流を深めればどうか②10周年記念総会に沖縄支部からの出し物を検討すればどうか③沖縄支部の会員名簿の総点検が必要ではないか等、今後の支部活動について積極的な意見が出された。総会終了後、懇親会が行われ、和気あいあいな相互の親睦を深めることができた。

このあと議事に入り、金城幹事より校友会2009年度事業計画についての要点報告があった。また、山下支部長より、役員改選について提案があり原案通り承認された。山下支部長より今後の支部活動について、今後も県内の校友の輪を広げるとともに、校友会総会及び経法祭への積極的な参加、在学生との交流の推進等の提案があり、この提案に基づき意見交換を行った。最後に坂下副支部長より開会挨拶があり、議事は滞りなく終了した。

第2部の講演会では藤本和貴夫学長より「大阪経済法科大学の現状と将来の展望」と題して、大学の現況について資料に基づき、詳しい報告があった。

第2部の講演会終了後懇親会が行われ、ウインズ平阪佳久氏と香川支部からの参加者も加わって、出席者相互の親睦と交流を深め合い散会した。

### 第7回石川支部総会

2009年3月21日(土)第7回石川支部総会が金沢市内の「大名茶屋」で開催された。石川支部校友8名、大学からは藤本和貴夫学長、本部役員3名の計12名が参加した。

第1部の支部総会では山下浩希石川支部長より、校友との再会を喜ぶとともに校友会活動についての活発な意見交換の場にしてほしい旨の開会挨拶があった。



このあと議事に入り、金城幹事より校友会2009年度事業計画についての要点報告があった。また、山下支部長より、役員改選について提案があり原案通り承認された。山下支部長より今後の支部活動について、今後も県内の校友の輪を広げるとともに、校友会総会及び経法祭への積極的な参加、在学生との交流の推進等の提案があり、この提案に基づき意見交換を行った。最後に坂下副支部長より開会挨拶があり、議事は滞りなく終了した。

第2部の講演会では藤本和貴夫学長より「大阪経済法科大学の現状と将来の展望」と題して、大学の現況について資料に基づき、詳しい報告があった。

第2部の講演会終了後懇親会が行われ、ウインズ平阪佳久氏と香川支部からの参加者も加わって、出席者相互の親睦と交流を深め合い散会した。



## 第9回 香川支部総会

2009年3月29日(日)第9回香川支部総会が高松市内の「喜代美山荘・花樹海」にて開催された。冒頭石塚香川支部長より、校友の再会を喜びとともに、支部総会では校友会事業と香川支部の活動について忌憚のない意見交換をさせていただきたい旨の挨拶があった。続いて校友会本部の出口寛常任幹事より挨拶があり、議事に入った。

石山幹事より、2008年度校友会事業及び2009年度事業計画の要点報告があり、質疑応答がなされた。また、第5期香川支部役員が承認され、原案が承認された。引き続き石塚支部長より支部活動の今後の方針について報告があり、活発な意見交換がなされた。主な意見として、支部総会案内をホームページに掲載、各種の案内がきちんと届くよう住所管理の徹底、行事等に参加する校友を増やす活動、10周年記念総会への支部出席者の拡大、等があった。

支部総会終了後、同会場の屋島を臨む和室に場所を移して懇親会が行われ、終始和やかな雰囲気の中で出席者相互の交流と親睦が深められた。



## 第2回三重支部総会



第2回三重支部総会が2009年5月17日(日)松阪シティーホテルにて開催された。冒頭中須秀治支部長より、三重支部は昨年設立されたばかりであるが、校友会総会に4名、経法祭に3名が支部から参加するなど積極的の活動してきており、今後は現役学生にも参加を呼びかけるなど校友の輪を拡げていきたいとの挨拶があった。

出席者紹介ののち、橋本久法学部教授より、大学の近況について報告があり、その後北垣義弘幹事より、2008年度事業報告及び2009年度事業計画の要点報告が行われた。

議事では、中須支部長の支部活動についての報告に基づき活発な意見交換が行われ、校友会創立10周年記念総会の支部参加者の拡大、教育後援会と連動した三重出身の在学生支援、卒業式への支部長の参加、幹事会への副支部長の参加等、活発な意見交換が行われた。総会終了後、会場を『庄や駅前店』に移して懇親会が行われ、出席者相互の交流・



## 第6回高知支部総会

2009年6月27日(土)第6回高知支部総会が高知新阪急ホテルで開催された。今回の支部総会は、同日開催された第4回全国支部長会議に引き続きの開催であったことから、伴井敬司会長、藤本和貴夫学長・顧問をはじめとする本部役員と全国8支部役員がオブザーバーで出席した。

冒頭小橋光生高知支部長より、支部組織の強化、本部への協力体制、在学生および大学へのサポート等について説明があり、とくに支部活動については「楽しくなければ続かない。校友会は楽しいと思ってもらえるような集まりにしていきたい、また、そこから生まれた繋がりが何らかの形でその人の利益になればと願っている」との挨拶があった。

続いて藤本和貴夫学長より挨拶を兼ねて、教育改革や学生サービスの向上に力を注いでいる大学の現況について報告があった。



この後、本部事務局より2008年度事業及び2009年度事業計画について要点報告、小橋支部長より高知支部の2008年度活動報告及び2009年度活動計画について報告があり、質疑と意見交換が行われた。また、第4期の高知支部役員改選が行われ、新たに3名の支部役員が選出された。

支部総会終了後、場所を高知市内の「花まぐろ」に移して全国支部長会議出席者と合同の懇親会が行われた。参加者は高知支部の校友、本部役員、全国の支部代表を加え、総勢35名が集い、美味しいお酒と地元の皿鉢料理を前に、参加者全員が和やかで楽しいひと時を過ごした。

## 母校の近況

### 2011年新春完成予定

レストラン、カフェ・ラウンジ、プレミアムホールを備え、キャンパスライフをサポート!

# 「新学生ホール棟(仮称)」建設



スクールバス発着場から、教室棟が建ち並ぶ教育エリアへ向かうスロープを下りると、すぐ目の前の5号館北側に、2011年新春、「新学生ホール棟(仮称)」が誕生します。

ふれあい池を中心とした自然エリアと教育エリアのちょうど接点に建設される「新学生ホール棟」は、豊かな緑に映える白の外壁をもち、隣接する教育棟群とも調和を図りながら、黒の三角屋根が特徴的な外観です。東西両サイドにある2層吹き抜け・ガラス張りのエントランスを始め、開放的で透明感のある造りで、「やわらかさ」や「やさしさ」を感じさせるデザインになっています。

地上3階建てで、延床面積1,682.20㎡。高さは約18mあり、「新学生ホール棟」の三角屋根は4階建ての1号館屋上より高くなります。

1階中央部分が、高天井の開放的なレストラン。2階は、

「読書」「休憩」「パソコン」「談話」に使えるラウンジ。遊歩道からも直接2階のテラスに、そしてラウンジに行けます。西に大阪平野を眺望し、ふれあい池も臨める屋外テラスに囲まれるように3階にできるプレミアムホールは、講演会や研修会、コンサート、映画会等に使用できます。

今後もキャンパス環境の整備・充実をさらに進め、学生のキャンパスライフをサポートしていきます。

#### 【新学生ホール棟(仮称)の建設計画】

構造規模：鉄骨造・地上3階

建築面積：768.71㎡

延床面積：1682.20㎡

1階.....731.78㎡

2階.....511.68㎡

3階.....438.74㎡



## 母校の近況

### 第25回ユニバーシアード 競技大会に日本代表として出場!



田中誠太八尾市長(左から2人目)にユニバーシアード競技大会への参加を報告する小林穂奈美さん(右から2人目)

7月にセルビア共和国の首都ベオグラードで開催された「第25回ユニバーシアード競技大会・テコンドー競技(女子バンタム級)」に、本学経済学部1年生の小林穂奈美さんが、日本代表として出場しました。

小林さんは、10月に開催される世界テコンドー選手権大会(デンマーク)、12月開催の東アジア競技大会(香港)の日本代表に内定しています。

### 軟式野球部 1部リーグに振り返り

西都大学軟式野球連盟春季2部リーグ戦(9節)が、4月から6月にかけて開催され、本学軟式野球部が7勝2敗の戦績で見事優勝し、1年での1部復帰を達成しました。

主将の綿田佑貴さん(経済学部・3年生)は、「秋から始まる一部リーグ戦でも、好成績を残し、西日本大会への出場権を獲得できるよう、日々の練習に励みたい。」と抱負が語られました。



1部昇格を決め、喜び軟式野球部ナインたち



## 母校の近況

### [ 2009年度就職内定先 ] 6月10日現在

#### 運輸・建設・不動産

西日本旅客鉄道、近畿日本鉄道、サカイ引越センター、東建コーポレーション、ジェイ・エス・ピー、近鉄不動産、積和不動産関西、東急リパブル

#### 銀行・証券

㈱長野銀行、京都中央信用金庫、近畿労働金庫、摂津水都信用金庫、浜松信用金庫、郵便局㈱、野村證券、三菱UFJ証券、日本アジア証券、SMBCフレンド証券、岡三証券、クレディセゾン、日本生命保険、かんぽ生命保険

#### 製造・卸

キッセイ薬品工業、中外製薬、久光製薬、㈱ロマンズ小杉、ザ・パック

#### 流通・小売

ミヤコ、エービーシー・マート、ライフコーポレーション、平和堂、ジャパン、ドン・キホーテ、イズミヤ、オークワ、AOKIホールディングス、セブン-イレブン・ジャパン、ファミリーマート、ヤマダ電機、トステムビバ、スギ薬局、キリン堂、サンドラッグ、万代、フレンドリー、松屋フーズ、ウエシマコーヒーフーズ、吉野家ホールディングス、ライフフーズ、カップ・クリエイト、くらコーポレーション、ゼンショー、ワタミ、関西スーパーマーケット、アークランドサカモト

#### 情報・サービス・その他

TKC、VSN、郵便事業、ラウンドワン、マルハン、太陽建機レンタル、総合警備保障

#### 公務員

公務員一次試験合格...33名

### 大阪経済法科大学副学長 村下博教授を偲ぶ

本年4月19日に急逝された村下博教授(本学副学長)を偲ぶ会が、6月10日(水)、6号館6500号教室においてしめやかに執り行われました。

偲ぶ会では、参席者による黙祷が行われた後、藤本和貴夫学長、法学部3年生の中谷祥宏さんから、弔辞が読まれ、参席者による献花が行われました。

当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、先生を慕う多くの学生・教職員・関係者が参席し、村下教授の業績と人柄が偲ばれました。

村下博教授のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



### 卒業生6名 法務博士学位を取得



法科大学院修了者との懇親会にて

本学卒業生が、今春、各法科大学院を修了し、法務博士(専門職)の学位を取得しました。

2005年度に本学から初の法科大学院進学者が出た後、毎年多くの学生たちが法曹の道を目指し、法科大学院に進学を果たしています。

本学では、今後も法曹を目指し、日々勉学に励んでいる在学生・卒業生を応援するとともに、法科大学院修了者の新司法試験合格を心から祈念します。

< 2009年法科大学院修了者 > 山崎 亮介氏 関西学院大学法科大学院  
加々良昇和氏 熊本大学法科大学院  
仲里 義克氏 京都産業大学法科大学院  
板東 正也氏 龍谷大学法科大学院 中野 栄吉氏 龍谷大学法科大学院  
田邊 龍真氏 愛知学院大学法科大学院

## 文部科学省の平成21年度「大学教育・学生支援推進事業」 学生支援推進プログラムに採択される。

文部科学省が本年度公募した「大学教育・学生支援推進事業」(テーマB)では、「各大学等における学士力の確保や教育力向上のための取組の中から、達成目標を明確にした効果が見込まれる取組を選定し、広く社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行うことにより、我が国の高等教育の質保証の強化に資することを目的」にした取組が募集された。本学はこの事業に「不況下における学生の個別ニーズに対応した就職支援体制の構築」という取組を申請し、学生支援推進プログラム(就職支援の強化など総合的な学生支援)に採択されました。

本学は、これまで「高度専門職業人」及び「幅広い職業人」の育成を目標とした学士課程教育を目指してきました。今回採択された取組は、急激な景気悪化による困難な状況と学生の個別ニーズに効果的に対応した就職支援を行うため、就職情報システムをより一層充実させ、キャリア教育及び就職活動に関する教育力を高めることを目的としたものです。今回の採択により、学生が希望する進路の実現、高い就職率の維持・向上をより一層図っていきたく考えています。



桑原 武志さん

考古学をこよなく愛し、地元枚方市で市民や子供たちに歴史の大切さを伝え、その傍ら、本学で講義を担当している桑原さんにお話を伺った。

(第1期生:1974年法学部卒)  
(財)枚方市文化財研究調査会学芸職員  
大阪経済法科大学教養部非常勤講師

発掘調査の現場から、大学によく行きました。今では考えられないことですが、車を校内に乗り入れて駐車していました。当時は学生も少なかったですからね(笑)

卒業後の進路はどうされたのですか?

学生時代から地元の枚方市遺跡調査団にお世話になっていました。そこを母体に1978年11月に財団法人枚方市文化財研究調査会が設立され、現在に至っています。

現在、私は主に埋蔵文化財(遺跡)の発掘調査や保護と活用(遺物の展示、地元小・中学校や地元公民館への出前講座)などの仕事をこなしています。

勤務している(財)枚方文化財研究調査会の敷地内には国内でただ1つ、江戸時代の姿のままに残る鋳物工場や、田口山遺跡で発掘された弥生時代中期の竪穴住居跡を復元していて、見学も自由にできます。ぜひ、お子様やお孫さんと一緒にいらしてください。

詳しくは下記HPをご参照下さい。

経法大で考古学の講義を担当されているとお聞きしましたが

1999年4月から前任者が退職されたのを受け、村川先生から声を掛けていただき、大学や考古学研究会に少しでも役に立つのならと引き受けました。縁があってもう今年で10年目となりました。週に2コマ講義しています。大体200人前後の学生が私の講義に出席しており、少しでも「考古学」や「遺跡」ことを知ってもらいたくて、一生懸命また楽しく授業をしています。

校友会会員へのメッセージをお願いします。

100年に1度の金融危機などといった暗い話題ばかりで閉塞感もあるでしょうが、学生時代の楽しかったことなどを思い出して仕事に頑張っていきましょう!今年の経法祭は校友会のテントを訪ねてみる予定です。当時の懐かしい仲間と語り合いたいのので、久しぶりに母校に集まりませんか!

枚方市立旧田中家鋳物民俗資料館  
<http://www14.ocn.ne.jp/~hirabun/>  
(財)枚方市文化財研究調査会  
<http://www.eonet.ne.jp/~hirakatabunkazai/index.html>

経法大を選んだ理由を聞かせて下さい。

高校時代から考古学に興味を持ち、歴史(考古学)を専攻できる大学を目指しましたが、残念ながら希望の大学に合格できませんでした。そのとき、発掘調査をされている高校の社会の先生から新しく開校する大阪経済法科大学に、村川行弘先生(故人)が教授として就任されると聞き、最終募集で滑り込み受験し、晴れて経法大1期生として入学しました。

大学生活のエピソードや思い出を聞かせて下さい。

まず、村川先生と一緒に考古学研究会(注:残念ながら現在は廃部)を立ち上げ、初代部長として一生懸命頑張りました。私を含めて部員全員が考古学の基礎さえ分かっていなかったのが、それはもう大変でした。しかし、好きな考古学を勉強できるので、当時は毎日が本当に楽しかったですよ。村川先生の研究室で、奥さんに入れていただいたお茶とお菓子をいただきながら考古学についていろいろと教えていただきました。

そして考古学研究会として1976年に実施した伏見城武家屋敷発掘調査、1979年の花岡遺跡発掘調査、1980年の大竹遺跡発掘調査には卒業生として発掘に参加しました。この時は現在も大学におられる橋本久先生にも、大変お世話になりました。

(写真はその時の報告集)

大学生活一番の思い出はやっぱり経法祭ですね。文化会本部長として1期生の部長らと企画・立案して、夜遅くまでわいわいがやがや議論したことを今でも覚えています。私は1回生の途中から中古車を買って、大学の通学に使っていました。



鈴木 泰幸さん 1981年3月法学部卒業

地下鉄堺筋本町駅すぐの大阪国際ビルディング19階に司法書士法人リ-ガルバンク代表の鈴木泰幸さんの事務所はある。努力の末に、司法書士になるという学生時代からの夢を実現した。リ-マンショックに翻弄されながらも、常に前向きに仕事に取り組む鈴木さんにお話を伺った。

弁護士のように法律に携わる仕事ですが、どちらかというところ家の購入や新しい会社の設立など、おめでたい法律関係の多いことに喜びとやりがいを感じます。この仕事をしていてよかったと思うのは、試験に合格することにより、自分の職業として生きている限り永久の資格が取得できることです。キャリアと実力さえあれば定年は基本的にありません。

仕事ですから当然いいことばかりではありません。些細なミスが大きな損害を引き起こす可能性がある仕事なので、取引が終わるまでは何度チェックしても安心できません。大きな案件でトラブルが発生してやめたいと思ったことが何度かありました。しかし、その反面やり遂げてクライアントに喜んでいただいた時は、何もにも代え難い喜びを感じます。

今後の目標は、これまでどおり地道にコツコツと信頼される司法書士の道を歩んでいくことです。

どんな学生時代を過ごされましたか?

私の場合、民法や刑法、商法を実際の社会にあてはめて勉強することに関心がありました。司法書士の資格を取りたいと思って、勉強内容がほとんど重なっていた司法試験受験研究会に入ったことが、大きな転機になりました。

教員が月一度ゼミ形式で指導して下さったり、現役の弁護士先生の先生と直接お話しできたりして、けっこう楽しい研究会でした。この研究会で狭山市のユ-スホテルへ勉強合宿に行ったことなどは、楽しい思い出となっています。

また、学生時代さまざまなアルバイトをしました。下宿先が造園業だった関係で造園のアルバイトを長くやりました。ほかにもガソリンスタンド、喫茶店、ディスコのDJ、車の販売、司法書士事務所の補助等もやりました。ある意味、ほんとうの「経済学」を学んだのはアルバイト経験からかもしれません。

卒業後のことを考えて4回生のとき行政書士資格をとり、司法書士資格を取るために専門学校に通うことにしました。

現在の仕事に進もうとした動機は?

当時の就職状況は悪くなかったと思います。2~3社からは内定をもらっていました。父はサラリ-マンでしたが、私は定年がなく独立してできる仕事がしたいと思っていました。大学のキャンパスで司法書士専門学校のパンフレットを見たことが、将来の具体的なイメージを持つきっかけになりました。司法書士事務所で働くかわら受験勉強に励み、司法書士試験に合格したのは30歳を過ぎてからでした。

現在は主にどんな仕事に携わっておられますか?

不動産の権利に関する登記が主な仕事ですが、現在は優良未上場会社の事業承継、M&Aに関する登記も行っています。その他、裁判や債務整理の仕事も若干あります。

